

## 第9回かながわ寄付をすすめる委員会 結果概要

日時 平成24年5月17日(木) 10時～12時

場所 かながわ県民センター コミュニティカレッジ講義室2

出席者 委員5名(欠席:益永委員・米田委員)

県委託事業者

(横浜エフエム放送(株)、NPO法人横浜コミュニティデザイン・ラボ、NPO法人ぐらす・かわさき、公益社団法人日本フィランソロピー協会、NPO法人参加型システム研究所)

### 1 開会

### 2 協議

#### (1) 平成24年度新しい公共支援事業・寄附促進に向けたNPOの認知度向上事業の対象事業についての意見交換

- 各事業者から、今年度の計画について説明を行っていただき、委員と事業者との間で、意見交換を行い、連携の可能性を探るとともに、事業の進め方についての具体的な提案などを行った。
- 事業者間だけでなく、本委員と事業の進捗状況や課題などを情報共有することが、効果的に事業を行う上で必要なことから、グループウェアソフトなどを使った情報共有を行ってはどうかという提案が委員からあり、委員及び事業者の間で了承された。

#### (2) NPOのための共感獲得実践セミナーの実施結果と委員会での企画について

- 3月に開催した「NPOのための共感獲得実践セミナー」のアンケート結果をふまえて、24年度に委員会企画による講座等を開催するかどうかの検討を行った。
- 新たな内容の講座を実施するよりも、3月に開催した講座を他の地域で地域ごとの特色を出しながら開催する方が効果的であるという結論に至り、県内3箇所(藤沢、鎌倉、川崎)で、7月、9月、10月を目処に開催することとした。

#### (3) 新しい公共支援事業終了後に関する検討について

- 新しい公共支援事業の中でも、特にWebサイトのあり方について、検討を行った。
- 現在のWebサイトは、NPOの情報を伝えることが主になっているが、情報が過剰であることから、一般の人からみて、シンプルでわかりやすいサイトに模様替えするなど、名称や、機能、サイトの構成を整理した上で、25年度以降も何らかの形で残した方がよいという結論に至った。

#### (4) その他

- 副委員長について、米田委員に替わって手塚委員が就任することとなった。
- 次回の委員会は、7月にセミナーと併せて開催することとした。

### 3 閉会

～主な発言～

**(対象事業者との意見交換)**

- ・横浜コミュニティデザイン・ラボのチャリティアクションコンテストについては、7月に寄付を集めたい12のプロジェクトを決めるということだが、ぐらす・かわさきが行う「かわさきサポート基金」でも持続応援型の対象団体を8月に決めるので、その段階で、12のプロジェクトに入れるというような連携が可能かどうか検討してほしい。
- ・参加型システム研究所の講座の会場は、県内各地にするとということだが、連続講座なので、場所は同じ方がいいという考えもある。もし、会場を変えるのであれば、横浜近辺だけにしないで、現場に近いところに設定するという考えもある。ターゲットをどこにするのかによって、場所は変わってくる。
- ・会場の件だが、鎌倉では今お寺が人気であり、お寺を会場にすると、通常の会場の倍の参加者になるようなこともあるので、地域の特性を生かした会場設定があるということ参考にしてほしい。
- ・ぐらす・かわさきの「かわさきサポート基金」は、エリアが川崎ということで、基金の原資自体を集めていこうということだが、プロスポーツクラブは地域を応援したいという気持ちをもっているということを知っているから、そういうところにアプローチしていくことも検討していただければと思う。
- ・日本フィランソロピー協会の事業は、アメリカで成功しているから日本で成功するというわけではなく、現在、小・中学校の総合的な学習の時間で行われているのは、主に環境学習だ。現場をよく歩いて実態を把握した上で、普及をすすめてほしい。
- ・横浜コミュニティデザイン・ラボのチャリティアクションコンテストについて、クリエイターとつながりがあるNPOもあるので、できればそういうNPOとも連携してほしい。
- ・また、クリエイターなどのプロボノの課題は支援の継続性とその後の団体側のスキルアップが追いつかないという点だ。せっかくいいデザインのものでクリエイターに作っていただいても、技術がなくて続けられないということがある。そういった点に留意して、プロボノのあるべき方向性を探してほしい。
- ・FMヨコハマの事業は、情報が耳から入っていくイメージだが、紙媒体でも展開していくのであれば、統一的なヴィジュアルイメージをつくっていただくと、広がりが出てくるのではないかと思うので、検討してほしい。
- ・この委員会の昨年度の反省として、事業者間の横のつながりができていなかったという点があったので、具体的な年間スケジュールをお知らせいただき、他のNPOにも情報提供などしながら進めていきたい。
- ・事業者間での連携もそうだが、事業者と委員との間でも連携をとりたいので、情報共有や進捗状況等のスケジュール共有を行いたい。
- ・例えば、サイボウズというフリーのグループウェアを使って、スケジュールや情報共有するという方法もあるので、活用したらどうかと思う。また、この県民センターの9Fにアドバイザー相談というコーナーがあって、そこではコーディネートを行う機能もあるので、そこをぜひ活用してもらえたらと思う。

### (委員会が実施するセミナーの内容に関する発言)

- ・事業の進捗状況や進行管理の把握はしておいた方がよいので、サイボウズを使ったり、9Fのアドバイザー相談でコーディネートしたりという、県ではできない部分をソーシャルコーディネートかながわが担ってもいい。
- ・3月に行った共感獲得実践セミナーと同じ内容を県内各地で行うという手もある。
- ・県の企画といった場合に、横浜だけでなく県内各地で行うというのは意義がある。
- ・鎌倉だったらお寺など地域ごとの特色を活かして、実施すると面白いのではないか。
- ・共感獲得実践セミナーで実施したファンドレイジング事情は、社会教育委員の方にも聞いてもらえると、寄付をすすめる仕組みを構築する上で波及効果が高いのではないか。
- ・アンケート結果にあった、ソーシャルメディアの活用講座やHPの改善講座などは、効果はあまりないだろうか。
- ・その部分だけを取り出してやるとなると、NPOは、理解はできるが実際にはできないということになるので、そもそもそれは何のためにやるのかというつくりの講座になるが、どちらにしても短い時間の中では、さわりしかできない。
- ・本来的には「かなチャリ」の機能なのだと思うが、例えば「かなチャリ」に相談機能をつけるとか、各団体のHPを作り変えるのは大変だけど、寄付関連についてはここを見ればわかるという風になればいい。今のサイトは情報がありすぎ、一般の人にはとっつきにくい。
- ・アンケートであがってきたテーマについては、別個に事業を起こすべきであるので、この委員会としては、他県にはないこの誇るべき委員会に自己宣伝にもなるし、3月と同じ内容を県内各地でやっていく方がよい。

### (新しい公共支援事業終了後に関する検討について)

- ・対象事業のうち、特に「かなチャリ」について、どう考えるか。
- ・「かなチャリ」という名称や機能も含めて同じまま継続していくのか。
- ・今回、FMヨコハマとコラボレーションするので、「かなチャリ」という名称は、多くの人に自然と耳に入ってくるのではないか。
- ・「かなチャリ」は、今は情報が過剰である。情報が少ない方が見やすい。
- ・県民一般が対象といったとき、見やすさというのも大事な要素だ。
- ・名称はともかく、機能はこのままの形で残すのだろうか。
- ・機能も、もう少し寄付に特化するということも考えられる。
- ・シンプルかつ、わかりやすいサイトにした方がよい。
- ・県が開いているとサイトという形にして、更新作業は別の人が行うという方法もある。
- ・寄付に特化したサイトになっていれば、運営費を寄付や協賛で集めるということもできるのではないか。
- ・岡山県の寄附促進サイトは、岡山の課題を見せて、その課題に取り組むNPOがあつて、応援したい場合は寄付ができるといったシンプルなつくりになっている。
- ・名称や機能も含めて検討すべき点はあるが、何らかの形で残していくという方向はいいのではないか。
- ・FMヨコハマのサイトのどこかに、NPOに関するページを作ってもらって、そこにこ

ちら側がリンクを張るという発想もあるではないか。

- あるいはソーシャルコーディネートかながわの方で、ページを作って、そこに繋ぐという方法もある。
- FMヨコハマの番組でも後半は、今後の課題や展開を紹介できればと思っているが、そのときに一番いいのは、そういう場を活用してオール神奈川のファンができて、さらにFMヨコハマも応援するような形ができれば、その後につなげることができる。
- 仮にオール神奈川のファンができたとして、「かなチャリ」をそこに至るポータルサイトという形にして、ソーシャルコーディネートかながわが運営するというのは、どうだろうか。
- そもそも、横串が無い、統括できていないという理由で、実行委員会の別動体として作ったのが、ソーシャルコーディネートかながわだ。また、基金を作ることができるよう、NPO法人ではなく、一般社団法人にもした。よって、そういう可能性もなくはないので、可能性を検討していきたい。